

## 助成活動実績報告書

企画名	里山再生プロジェクト
団体名	あかいわ美土里の和
<p>①活動の目的について</p> <p>「赤磐市の自然環境を永続的に保持し、人と自然とが共存する循環型のまちづくり」を理念に生物多様性を維持する里山づくりをみんなで協力して活動することを目的とする。</p>	
<p>②内容について</p> <p>4月16日(日)「磐山ハイキング」(一般公募事業)参加者8名</p> <p>6月18日(日)10時～15時「山菜摘みと天ぷらお茶づくり体験」(一般公募事業)参加者37名</p> <p>6月18日(日)18時30分～「夏至の夕日とホタルを見る夕べ」(一般公募事業)参加者18名</p> <p>6月24日(土)「磐山フィールドウォッチング」(一般公募事業)参加者14名</p> <p>7月30日(日)講演会「バイオミミクリーと擬態」(一般公募事業)参加者26名</p> <p>8月20日(日)「里山遊びワークショップ」(一般公募事業)参加者20名</p> <p>10月21日(土)22日(日)桜が丘いきいき交流センター第13回文化祭 参加者多数 行事等活動報告を写真パネルで展示、ワークショップではドングリ遊びを実施。多くの市民に里山の意義と楽しさをアピールした。</p> <p>12月23日(土)「観音山陰陽石に昇る冬至の朝日を見る会」(一般公募事業) 参加者13名</p> <p>その他日常活動</p> <p>5月・12月・2月の第3日曜日(9・10月は雨天中止)会員参加の定例里山整備 参加者平均8名/回 毎月第3火曜日に定例会議を実施 参加者平均12名/回</p> <p>年度末に7周年記念誌を発行した</p> <p>(以上、助成金活用に係る活動)</p> <p>当会の助成対象外活動(他の助成対象活動&amp;他団体主催行事)</p> <p>7月17日(日)「ホームグラウンドクリーン作戦2016」(一般公募事業)を実施 参加者13名</p> <p>11月13日(日)「ツリークライミング体験教室2016」(一般公募事業)を実施 参加者94名</p> <p>18年1月22日(日)「ホタルよみがえり作戦2016」(一般公募事業)を実施 参加者15名</p> <p>18年1月元旦 地元町内会役員会主催「磐山で初日の出を見る会」に参加、協力 参加者25名</p> <p>自然観察会を赤磐市野生動植物調査会と合同で実施した。</p> <p>5月28日里山自然観察会参加者43名</p> <p>7月23日淡水魚観察会参加者42名</p> <p>10月29日哺乳類観察会(台風で中止)</p> <p>2月鳥類・両生類観察会</p>	

### ③この活動によって達成された成果

7年間の活動により備前県民局より「地域づくり推進賞」を授与され活動が評価された。

#### 里山整備作業によって達成された成果

継続的な活動により人と自然とが共存する環境が整備され市民の憩いの場となりつつある。

(例:磐山ハイキングコース整備・パンフレット設置、ヘイケボタル鑑賞道整備、遺跡周辺整備)

整備作業により以下のイベント開催の成果がある。

山野草を食するイベントを開催：「自然から恵みをいただく」という里山の原点を見直す活動の一つとして定着した。

ツリークライミング体験に合わせて子ども料理教室を実施 食育活動に役立っている。

シンポジウム・講演会の開催：里山整備の面白さ、大切さ、自然とのかかわり方

生態系サービスの活用 自然環境の保全等大切なことを広く啓蒙することができた。

◎以上の結果、里山整備にも親子での参加が増えた。

農業のバックヤードとしての里山から現在の生活スタイルに適した里山の在り方が見えてきた。

#### 赤磐市桜が丘いきいき交流センター文化祭参加によって達成された成果

5度目の参加で、リピーターが多くあり活動アピールに効果があった。

### ④今後の計画・展望について

#### 今後の計画

活動に継続性を持たせ、その中で新しい息吹を吹き込んでいく。具体的には

- ① 一般公募による年2回の里山整備作業の継続
- ② 会員による月1回(第3日曜日)の里山整備作業
- ③ 磐山でのワークショップ及び展示会・シンポジウムの継続開催
- ④ 町内会や他団体との交流を深める
- ⑤ 自然観察会の継続(赤磐市野生動植物調査会と協力して行う)

#### 展望について

①「地域づくり推進賞」受賞により確固たる市民権を築くことのできる素地ができた。

②里山整備作業に親子での参加が増え、自然の重要性と楽しさの認知度が高まっている。

子どもの多くは3歳から小学生までで「ふるさと愛」が身につくものと確信する。

同時に若い親御さんの力が自然を守る力となっている。

③地域との連携が拡大している。

④ホームページを見て市外からイベントに参加する人が増えている。

⑤赤磐市野生動植物調査会の活動が本格化し、多くの市民が自然に触れる機会が増えてきた。

⑥市との土地使用契約の継続が内定している。

⑦7周年記念誌発行で広範囲に活動を広報することができる。

◎このように地域住民が森林に親しみ、里山を大切にする機運が高まりつつあり、行政からも信頼されるようになってきている。特に子どもとその若いファミリーのリピーターが増えているので、将来の展望が明るいと思っている。

「赤磐市野生動植物調査」が発足した経緯もあり活動が信頼されていると思われるので、活動に広がりを持たすことができると思っている。